日本プロレタリア音楽家同盟ニュース

第14号

1931、11、18、発行
東京府外下落合460
日本プロレタリア音楽家同盟書記局発行

実質的に拡大強化につとめよ

全同盟員、研究生諸君。

最近の満州事変は吾々にとつて如何なる時期を示してゐるか。帝国主義戦争の危期は支那を中心としてソヴエート攻撃の方向に向つてゐる。それにしたがつて奴ら資本家地主共は国内に於けるファッショ化を巧にあやつ、て文化の領域に於いてもこの事は判りと見る事が出来る。ラヂオ（殊に子供の時間は重要である）、新聞雑誌、音楽の分野から見ても戦争コスイのために狂気じみたことまでやつてゐる。ブル音楽家共はその御用をつとめてフトコロをあつためる事だけしか知らない。吾々は音楽会その他に於いて更に力強い一翼となつて、打ち勝つて行かなければならないのだ。

今后の吾々の活動は一層重大な意義を持つて労働者農民の前に展開されなければならない。吾々は戦争反対だ。用意はよいか。実質的に拡大強化につとめよ。

第3回公開に際し全同盟員に告ぐ

第三回公開プロレタリア大音楽会は旬日に迫つた。此の秋の斗争として早くから第三回公開は計画されてゐたにも拘らず然かも第二回の批判なかツ準備斗争に就いては相当強く その経験は獲得されねばならないのに反し依然今度の公開にあたつても、先づ初めに大きな欠点を見る事が出来る。それは準備が短期間の間にあれて、行はれる事である、此の事は公開音楽会が一年に一二度しか持たれない為にそのための曲目の整理、練習の用意、事務等の訓練が足りない事を暴露してゐる。曲目レパートリーは常に用意されてゐなければならないし、その練習も常に充分なされてゐなければならない。然し今度の場合でも間際になつてやつと作曲を促進させなければならぬ様な状態であつてはならない。

同盟では今后公開を少なくとも一年間に四回位持つ。我々の公開活動は今后大きな意義を持つて我々の手によつて行はれて行くのだ。

全員は公開に対して積極的な闘争を示せよ。そこに於て我々の公開に対する意義を理解し、用意と更に進んで公開に対する手段方法を考へて呉れ。公開斗争を守れ！第三回公開プロレタリア大音楽会万才！！

プロレタリア文化聯盟の結成の準備すゝむ

プロ文化戦線が文化聯盟に依つて統一強化されるのを恐れたブル共はブル新聞の上で盛にデマをとばしてゐるが、準備会はそんなデマはけつとばして着々と進められてゐる。P.M.からは山本、福田出席してゐる。略称はKOPF（コップ）とまつたが、すでに規約も出来、綱領も決定された。綱領が中に示された基本的任ムは次の通りである。

1、ブルヂョアジー、ファシスト、及社会ファシストによる文化反動との斗争。
2、労働者農民其の他の勤労者の政治的経済的任ムの系統的啓蒙。
3、労働者農民その他の勤労者の文化的生活的欲求の充足。
4、マルクスレーニン主義の上に立つプロレタリア文化の確立。

参加団体の数は実に十三団体。この文化聯盟の組織は各団体の独立性を無視した単なる組織ではない、各文化団体の自立的活動に統一を与へるものである。そして各団体から選ばれた協議員によつて中央協議会が構成されてゐる。

全同盟員研究生は文化聯盟の準備に注目せよ。

第3回プロレタリア大音楽会を守れ、！

委員会報告

十一月十一日、練習所に於て、重要議事は次の如し、

一、歌曲集の定價並びに戦旗の基金に関する件。

歌曲集改訂版をこれまで譲り受けた分の定價は発行前なり交 を續けてゐたが、P.Mの立場として殊に今度からはP.Mで出版する筈のところを戦旗社の希望によって発行をゆずっており尚改訂版にするに当って新曲を二曲送ってゐるので少なくとも五銭以下に要求する。P.Mは他に財政難を収入の路がないので今後歌曲集の出版は必ずP.M自身で行ふ。戦旗社の最後の基金カンパのP.M割當額十円はその歌曲集の賣上の中から出す。

一、人事の件。

a、新に加盟希望者七名あり。今后加盟希望者には簡単な技術的試問をする（労働者以外の者の場合）そして此の事は研究生及び研究所の問題と合せて一つのそのための準備としても必要である。

b、調査部長守田正義辞任を申し出でた。委員会はそれに対して守田の一身上の不都合に対しその理由を認め、今后P.Mの要す間の技術である作曲活動に専念してもらふ事を條件に可決。

c、部長後任河野さくら。同時に部員の中原は他の仕事を兼ね調査部の仕事まで出来ないので新たに赤松良雄とかわった。

一、同盟と値下の件。

従来の月額五十銭は他の団体に比べたら非常に高い、それに滞納の多いのは高くて負擔に堪へられないからではないかとの考慮から三十銭に値下げする。

一、音楽新聞の件。

編輯長露木のところ、矢張り実際に事ムに当るものが編輯たるべきであるので山本になる。その他に編輯事ム員中野一名のところとても多忙なので若一名赤松（良）を与ぐ。

一、ナップ拡大協議会の件。

報告山本、此の協議会はナップ最后の協議会であり又特に弱い同盟強化の件があるので、P.Mからは全員委員会出席する。

各同盟の活動方針、組織方針の批判検討のため、P.Mの自己批判され要約すると次の様である。

先づ第一に指導部の弱いこともである。この事はその他の事と関聯して理論的活動が皆無である事や、中堅分子の養成がなされないことと合せ、技術者がないことも、財政的な苦しみが仕事を発展させえない事がP.Mの弱点と思ふ。以上。

ナップの発展的解体

最後の拡大協議会

十月十二日、ナップ事ム所に於いてナップ最后の協議会が持たれ、P.Mからも露木、関、原、福田、山本の五名出席した。重要議事は次の如し。最初にナップ書記局、機関紙部の報告あり、次いで各同盟報告も討題（三）の各同盟の活動方針、組織方針の相互批判にして直ちに討題に入る。

一、各同盟の活動方針、組織方針の批判。

先づプロットから報告あり（他同盟の報告並に討論内容は略す）。

三番目にP.Mにうつる。強化の件と合せ。

報告の大要。

吾々は第一回大会の時すでに吾々に課された文化活動の任ムの観点から一般方針書がたてられ、現在に至るまでそれにしたがって活動してゐる。先づ最も重要な企業内音楽サークルの組織が精力的に行はれてゐる。大阪支部準備会その他二三の地方支部のこと、移動小公演とサークルの関聯、並に検挙のこと。教育的活動の不充分なこと。機関紙並に音楽新聞の発行、その他の企画。昨年度の批判として方針書に指適された点は現在でもほゞ同じである。要するに指導部の弱いこと、技術者がおらない事、経済的な原因、最も致命的なことは理論的活動の皆無等。

續いて質問討論に入る。

種々討論されたが重なことは

一、機関紙と新聞の機能に就いて。

同盟自身の組織のために機関紙の発行は絶対に必要である。音新はそれに並行して出されなければならない。

一、各専門部の委員会との距り、各専門技術班間のギャップに就いて。

各班の強化、獨立的な活動をなさしめてはどうか。獨立の文芸部。

新同盟員獲得に就いて。

同盟員を獲得して行ける様な組織、日本音楽家の獲得、そしてそれらの者をドシく動いて行く。

国際的成果の上に立ってゐないこと。

国際的連ケイ、水準を世界的地位に上せる。

一、研究所を実際的な訓練として行ふこと。

企画を継續して行ふこと。

レコード、歌曲集、講習会、音楽会等。

事の好い意見が述べられ、現在のP.Mには強化派遣員が入るので派遣する事になった。人選は書記長会議一任。

二、文化聯盟の問題。

ナップとの今后の問題、芸術団体だけの協議会、今までのナップの様な判りした指導機構を持たない芸術協議会を持つ。各団体から三名の協議員が出る。

ナップの発展的解体万才！

音楽新聞発行万才!

移動活動

戰旗社主催

文化聯盟結成戰旗の夕

廿一、二日の上野及亀戸、王子にも参加した、音楽演奏は不許可、詩の講演を行ふ。勿論吾々は検挙に対する斗争を少しもやらなかったのではないが、充分徹底的にやられたとは云へない。満州事変並に資本主義の第三期に際し、労資斗争の激化が益々高まりつゝある客観的現状に当面して、我々は弾圧に対する策と如何により強力に戦ふべきかを充分討論し具体的にその方針をたてなければならぬ。弾圧がファッショ化される事は明かだ。決して我々の検挙に対する力弱さを示してはならない。

王子文化クラブ創立演芸の夕、此処でも王子区にストライキあるためと言ふ理由で許可にならなかった。

一般消費組合家族コン談会、大井春好館に開かれたが、ここではうたへたけれども一人しか行かれなかったのは残念だった。

時事新報スト、その他記念日等に七ヶ数ヶ所。

最後に今后の出動の性質が単なる歌の持ち込みにならないで、サークル結成のキッカケのための出動が数多くなったことに全メンバーは注意せよ。

そのためにはその会合に[illegible]した具体的な吾々の態度が[illegible]準備されねばならない。

音楽会実行委員会報告

十七日、出席者山本、関、新島、青柳、中野

プロレタリア文化聯盟結成記念、楽器購入五〇〇円基金募集、

第3回プロレタリア大音楽会

日時、十二月五日(土)ヨル、六日(日)ヒル、ヨル、

開場、ヒル、一時半、ヨル七時、

開演、ヒル二時、ヨル七時半、

入場料、一般五〇銭、労働者、二十銭、

会場、築地小劇場、

曲目は全部新しいものを出す予定だが歌詞が未だ出来てゐない。プログラムは前の様に撒きぜ

ラト[illegible]に描きポスターを作って衛頭には[illegible]る。宣傳は吉[illegible]の雑誌、文新、新演、新、映々、等に広告をのせる。二十五日から一斉に宣傳、技術練習、その他の準備に就く予定だ。

音楽会練習

旬日に迫った五日六日の音楽会に向って猛烈な練習を展開させろ。

今までの練習日は勿論全部そのための練習にする。

全員は月、水、金の合唱練習に出席しろ。六時からだ。

その他の準備の手配する必要上合唱、弦、以外の者も出る事。

同盟費値下げ

同盟費の納入率は前に比しいくらか良い様だが完全に納入してゐるものがわづかに一名、再三再四の促しをも聞かないで拂はない者は一体自分たちの活動の停滞を腕をこまぬいたまゝで見てをられるのか、未納総額は金四十円を越えてゐる。而かも非道いのは去年からためてゐるのである。そんな事は吾々の間では絶対に許されないぞ。一度の飯は減らしても必ず毎月納入せよ。

十月の支出は三四九二、銭

収入は八円三〇、銭

前月残金共差引七円二三、銭

これではとても機関を完全に動かしては行けない。定例総会で同盟費は三〇銭に下げられたが、今度こそ全部の者が揃って納入しない時には何も出来なくなる。諸に音楽新聞、音楽

生

中ば。

とは大

常に誌

件を怠るな。

意義を持ってゐる。

かに於いて公演するこ

この共同斗争。来月の

崎地方小公演。プロ

木。

中に積貝助出

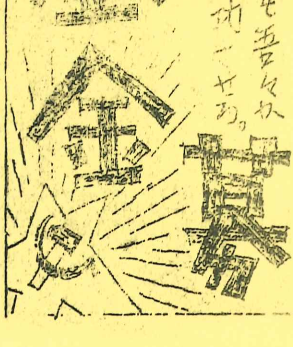
れ線を作れ。

た。

イツ純

基金カムパをもっと精力的に斗へ

吾々が楽器購入五〇〇円基金募集のカムパをおこしたのは七月の大会の時だ。すでにそれから五ヶ月まだく豆っぷほどしか集ってゐないでもっと徹底的に宣傳して今年中には必ず五〇〇円を突破させろ。同盟費も値下げされたのだ先づ進んで同盟員研究生は一銭二銭を送れ。吾々のカムパを吾々から進んで成功させろ。

楽器購入五〇〇円基金募集!!